

生命（いのち）と宗教性のコラボレーション

濱田 陽（帝京大学）

生命（いのち）の尊さを守ろうとする動機から、自らの知性・感性・力を超えた、ある尊い何かに依拠しようとする心性が、複数の宗教や無宗教において発現することがある。この複数宗教性において、注目すべき社会行動が生まれ、経済的に有意味な条件や効果に深く関係する事例と状況が生じる場合がある。

G8 メンバーであるカナダ一国の GDP 規模に TOP300 の取引高が匹敵し、世界最大の NGO ともいわれる協同組合に着目、その日本におけるパイオニアでキリスト教社会事業家でもある賀川豊彦の思想と事績を分析し、日本の協同組合諸団体（生協、JA 共済等）の近年における賀川再評価と合わせて考察する。

また、東日本大震災発生時に迅速に対応し、国際組織としてもっとも早い時期から支援活動に取り組んだ韓国の宗教 NGO（大韓仏教曹溪宗、カトリック、プロテスタント）の聴き取り調査から、それぞれの宗教的価値観が行動に及ぼす影響と、その経済的基盤について考察する。

以上、2012 年が国際協同組合年に決まり、国際社会において新たな関心を集めつつある協同組合と大災害に対応する宗教 NGO の 2 つのトピックから、価値観と行動経済学をめぐる諸問題にアプローチしてみたい。